

「自分は天から降りてきた生きたパンである」

今日の福音書では、イエスが「自分は天から降りてきた生きたパンである」という預言的な言葉を聞いています。... 誰でもこのパンを食べるならば、永遠に生きることができます。そのパンとは、世を生かすために与えられるご自身の肉のことです。イエスはこの言葉を通して、聖なるカトリック教会における聖体の秘跡を導入する最後の晩餐に向けて信者たちを準備していることです。

今日の福音書の中心的なイエス様の言葉は：「わたしは...です！」このような表現は神様がオレブ山の上でモーセに伝えられた自分の名前を思い起こしています。次にイエス様が自分の正体を現わしながらつけ加えるのは「私は...天から降ってきたパン。」「私は...命のパン。」「私は...生きるパン。」。イエス様が天から降ってきた食べ物であり、人間に命をくださる心の食べ物として現われています。

このようなイエス様の姿を見せることで、私たちがイエス様を人間として、また言葉とメッセージとして、すべて受け入れるために呼びかけられているのです。天国の方へ旅の途中の教会は、天から降ってきた普遍的な食べ物に支えられて、イエス様の言葉において信仰を守りながら、いつか神の御顔を仰ぎ見る時に達することが出来ます。

